令和7年度　北海道釧路湖陵高等学校　学校経営シラバス(全日制課程)

学校教育目標	学校の使命(スクールミッション)
よりよい未来の共創を目指して、主体的に社会の形成に参画しながら、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーを育成するために、 ○　自ら学び、考える、心身ともに鍛え、高い知性を身に付けた人を育てます。 ○　主体的に計画し、行動する、創造性豊かで、高い志をもった人を育てます。 ○　他者を尊重し、ともに高め合う、人間性豊かで、高い道徳心をもった人を育てます。	○　次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成 ○　多様化する国際社会において、主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成 ○　校訓「誠　愛　勇」のもと、向学心や探究心を高めながら、自己の進路実現に向けて意欲的に学校生活に取り組む生徒の育成

3つの方針(スクール・ポリシー)

○　グラデュエーション・ポリシー(湖陵GP):「探究力、創造力、国際コミュニケーション力を身に付けた生徒の育成」
○　カリキュラム・ポリシー(湖陵CP):「多様な学びに対応する教育課程の編成」
○　アドミッション・ポリシー(湖陵AP):「本校が求める生徒像」　※詳細は省略

学校経営方針

○　スクール・ポリシーを踏まえ、入学から卒業までの体系的かつ継続性のある教育活動を展開し、目指すべき学校像として再定義されたスクール・ミッションの達成を図りながら学校教育目標を達成する。
○　カリキュラム・マネジメントや学校評価をはじめとした、教育活動のマネジメントサイクルを確立し、教育活動の改善・充実を図る。
○　「探究力、創造力、国際コミュニケーション力」をバランスよく身に付けさせる教育活動を推進するとともに、自己の在り方生き方を考えさせながら、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育む探究的な学習活動の充実を図る。
○　服務規律の遵守はもとより、教員のライフステージを踏まえながら、自己研修を奨励したり、校内研修等を計画的に実施したりするなど、教職員の資質・向上に努める。
○　「学校における働き方改革『北海道アクションプラン』」等を踏まえ、効率的な校務運営に努めるなど、教員の働き方改革を推進する。

対象	中期目標(～R8)	今年度の目標	目標達成のための具体的な取組(評価の観点)
学習指導	◎主体的に学ぶ意欲と学力の向上	○学校設定科目を中心とした探究的な学びの充実を図る。 ○生徒の学習成果を客観的に判断する観点別学習評価の改善を図る。 ○教科等横断的な学習活動の充実に努める。 ○ICTの活用について研修に努める。	○SSH推進部との連携を密にし、適切に実施できる環境をの確保に努める。 ○観点別評価をより適切に実施できるように評価方法の改善に努める。 ○授業公開や互見授業により教員の連携を密にし、他教科と合同nでの授業の実施を図る。 ○授業での活用を促すとともに、授業で活用できる学習環境の整備に努める。
生徒指導	◎自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成	○生徒の社会的資質や行動力等の向上を目指した指導の充実を図るとともに、「生徒心得」の改善・充実に取り組む。 ○いじめの未然防止と望ましい人間関係の構築に向けて、教職員による生徒理解を深める。	○学校全体で、気持ちの良い挨拶や返事の重要性について指導する。スマホやタブレットの使用ルールやマナーについて、自律に基づいた行動ができるように指導する。 ○部長主任会議や職員会議・朝の打合せ等により情報共有を密に行い、日頃より生徒の実態把握に努める。また、いじめアンケート実施後には、生徒指導部よりフィードバックを作成し、情報の共有に努める。
キャリア教育(進路指導)	◎自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力の育成	○3年間の見通しを持った体系的な進路指導、進路活動が出来るように指導方針を提示する。 ○生徒の学習状況を測定・分析し、課題の改善に生かす。 ○生徒のキャリアプランを構築するため、説明会等の実施形態を工夫する。 ○生徒・保護者を支援するため、教職員による情報収集を計り、適切な情報発信に努める。	○各学年、分掌と連携し、体系的な進路指導方針を提示し、生徒が自己の進路実現に向けて主体的に活動できるよう促す。(探究活動を通して、自分の適性を知る。) ○模試校内分析会の実施と生徒へのフィードバックを行い、生徒の主体的な学習の促進につなげる。 ○生徒が卒業生の進路先での学びや、地域の職業人の職業観に触れる機会として、湖陵アカデメイアの開催を増やし、生徒の参加を促す。 ○教職員の各種研究会、検討会への参加を促進し、進路通信等を利用した適切な情報発信に努める。
健康・安全指導	◎心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚	○心身ともに健康の保持増進の充実を図る。 ○防災や危機管理に関する意識の向上を図る。 ○教育相談に関するスキルの向上と組織的な取り組みを推進する。 ○各種アンケートの活用法と評価の充実改善を図る。	○積極的な啓発を行い、健康に対する意識を高め、自己管理できるような支援を実施する。 ○防災避難訓を通して防火防災意識の向上に努めるとともに、減災を意識した生活態度の涵養に取り組む。 ○サポート委員会や分掌、学年間の情報共有を密にする。スクールカウンセラーとの連携を通じた、個々の生徒への適切な対応に取り組む。 ○学年や SSH 推進部と連携して心と身体のチェック・自己効力測定等のアンケートを実施し、生徒や教職員に適切にフィードバックすることで、生徒理解に取り組む。
理数教育	◎SSH事業を活用した探究能力の育成	○VUCA 時代に対応した Koryo Agency の整理と体系化を図る。 ○SSH 推進委員会によるPDCA サイクルの確立に努める。 ○KQ と総合的な探究の時間の実施内容の充実を図る。	○評価委員会を実施し、 Koryo Agency を構成するコンピテンスを測定する方法の研究開発を行う。 ○SSH 推進委員会の実施と、各ワーキンググループの運営を通し、コンピテンス配列表を作成するとともに、教科横断的な PBL 型授業の実施につなげる。 ○KQ と総合的な探究の時間の年間計画を作成し、内容の精査・改善を行う。